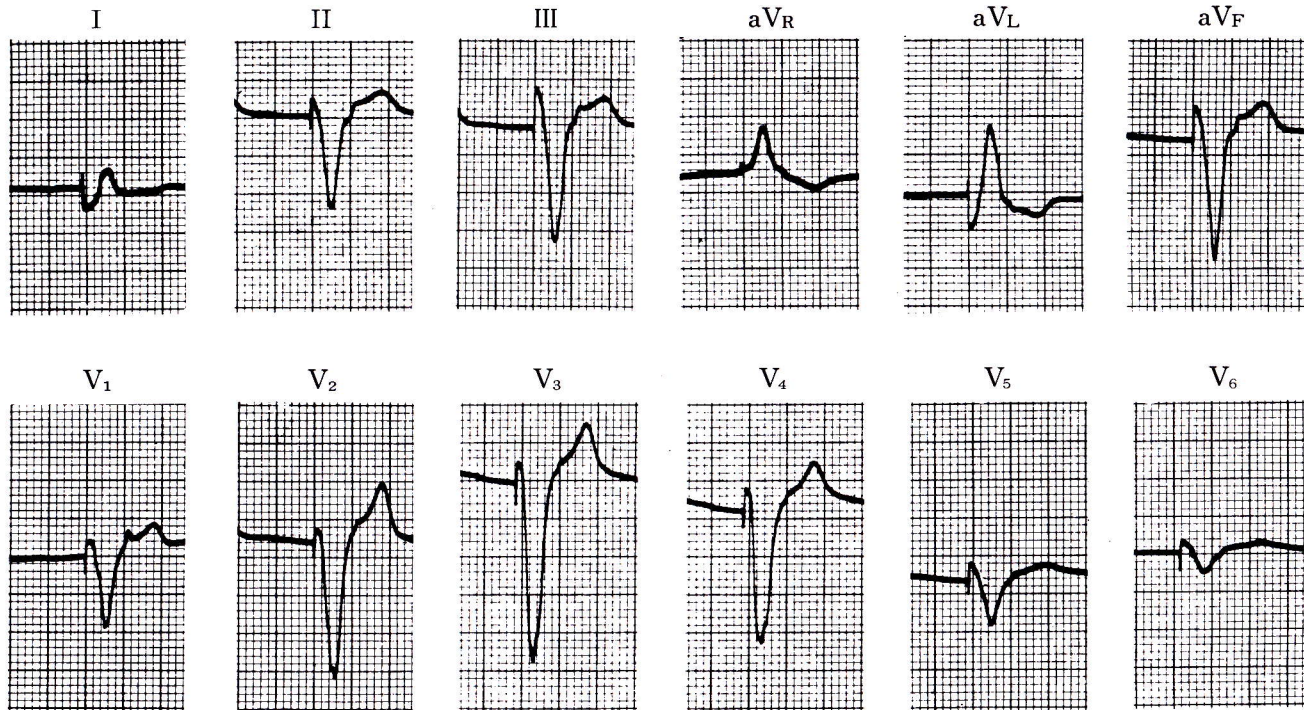


症例 74

●65歳 男

●ドック入院で心電図異常を指摘され、入院治療中の患者である。



1) 非常に幅が広い異常 QRS 波形が全誘導にみられるが何か。

心室ペーシング心電図

各誘導のQRS波起始部に鋭いスパイク状の小さい振れが認められる。これは心室ペーシングのペースメーカースパイクであり、本症例は洞徐脈、モービッツII型の房室ブロックのためデマンド型のペースメーカーを装着したものである。心室ペーシング時にはQRS波、T波は心室波形となるため、心筋梗塞、心肥大、心筋傷害をはじめとした通常の波形診断はすべて適用する

ことはできない。

ペースメーカー心電図ではペースメーカースパイクが出ているのに、その後にQRS波が出ない(ペーシングミス)、デマンド型ペースメーカーの場合には先行収縮のすぐ後にペースメーカースパイクが入る(デマンドミス)などの異常の有無、自己心拍の出現の有無に注意すべきである。